

朝日新聞の生活面で忘れてはならないのが、「ひととき」欄です。1951（昭和26）年に始まったコラムで、日常のふとした出来事や思いをつづった読者の投書欄です。そこに記された素直な思いに共感したり、励まされたりするだけでなく、涙を誘われることもあります。

2004年9月20日に掲載された「36年前の手紙」という78歳の女性からの投書は、以下のような内容でした。

——交通事故で亡くした9歳だった娘のことを、1968（昭和43）年9月にこの欄につづったところ、ある中学校の先生がその紙面を自分の生徒たちに配り、「このお母さんに手紙を書こう」と提案した。やがて生徒45人の慰めと励ましの手紙が届き、便りや電話での交流が始まった。そして今年、50歳になった生徒たちのクラス会に呼ばれ、36年前の手紙のお礼が言えた——

小さな記事を通して人と人が出会い、触れ合えるのも、新聞の持つ良さの一つではないでしょうか。この欄には道徳の教材になる投書が多いです。朝の会で読んであげたり、見出しを隠した「ひととき」の文章を配り、重要な部分を抜き出したり、見出しを付けさせたりしてもいいでしょう。NIEのきっかけとして取り上げるのも、おすすめです。

（鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問）